

中学校美術 評価に関する資料の ご案内

2021年度から新学習指導要領が全面実施されました。新学習指導要領における評価のポイントについて、中村一哉先生(実践女子大学特任教授)監修のもと、わかりやすくまとめた漫画を光村図書のウェブサイト上にアップしました。

こちらのQRコードから
ご覧いただけます。



これだけは押さえて! 中学校美術
新学習指導要領の評価のポイント

2021年度から新学習指導要領が全面実施されました。学習評価はどのように変わったのでしょうか。中村一哉先生(実践女子大学特任教授)監修のもと、わかりやすくまとめた漫画を光村図書のウェブサイト上にアップしました。

光村図書

高等学校版ART BY 「私のこの1点」の ご案内

光村図書では、2018年より「ART BY STUDENTS」というウェブコンテンツを立ち上げ、創意工夫にあふれる生徒作品をご紹介します。2022年2月時点で、中学生・高校生の作品数は650点にのびます。今回、高等学校『美術』教科書の編集委員の先生方が、その中から1点ずつお気に入りの作品を選びました。「私のこの1点」というページをご紹介します。

美術作品ギャラリー
ART BY 編集委員お気に入りの生徒作品
私のこの1点

光村図書では、2018年より「ART BY STUDENTS 生徒作品ギャラリー」というウェブコンテンツを立ち上げ、創意工夫にあふれる生徒作品をご紹介します。2021年12月時点で高校生の作品は250点にのびます。ここでは、高等学校『美術』教科書の編集委員の先生方が選んだ、お気に入りの作品をご紹介します。

◎ 絵画作品 ◎ デザイン ◎ 写真作品 ◎ 映像作品

絵画作品

- 世田谷美術館館長 酒井忠康 さんが選んだこの1点
「前進を止めたら息も止まるの」
- 画家・東京藝術大学名誉教授 O JUN さんが選んだこの1点
「黄色いセーターの自画像」

こちらのQRコードから
ご覧いただけます。



※「QRコード」は、株式会社デンソーウェブの登録商標です。
※Instagramは、Instagram, Inc.の商標または登録商標です。
※この出版物の内容は国連によって承認されておらず、国連またはその職員や加盟国の見解を反映するものではありません。
国連HP (<https://www.un.org/sustainabledevelopment/>)

美術準備室 No.20
2022(令和4)年4月7日

発行人 ■ 吉田直樹
発行所 ■ 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 電話: 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp
デザイン ■ Better Days (大久保裕文+深山貴世)
印刷所 ■ 梅田印刷株式会社



『美術2』のご案内 令和5年度版 新学期的 授業アイデア 特集1 特集2

アトリエ訪問
漫画家

山口つばさ

内容解説資料
本誌は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、(一般社団法人)教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのって配布しております。

作家の肖像
装丁家
平野甲賀

放課後ART
●青森県八戸市美術館
学校連携プロジェクト

この1点
「ガストホーフ・ツァ・
ムルデンタールシュペレ」
和田彩花



ア ト リ エ
訪 問

第 20 回

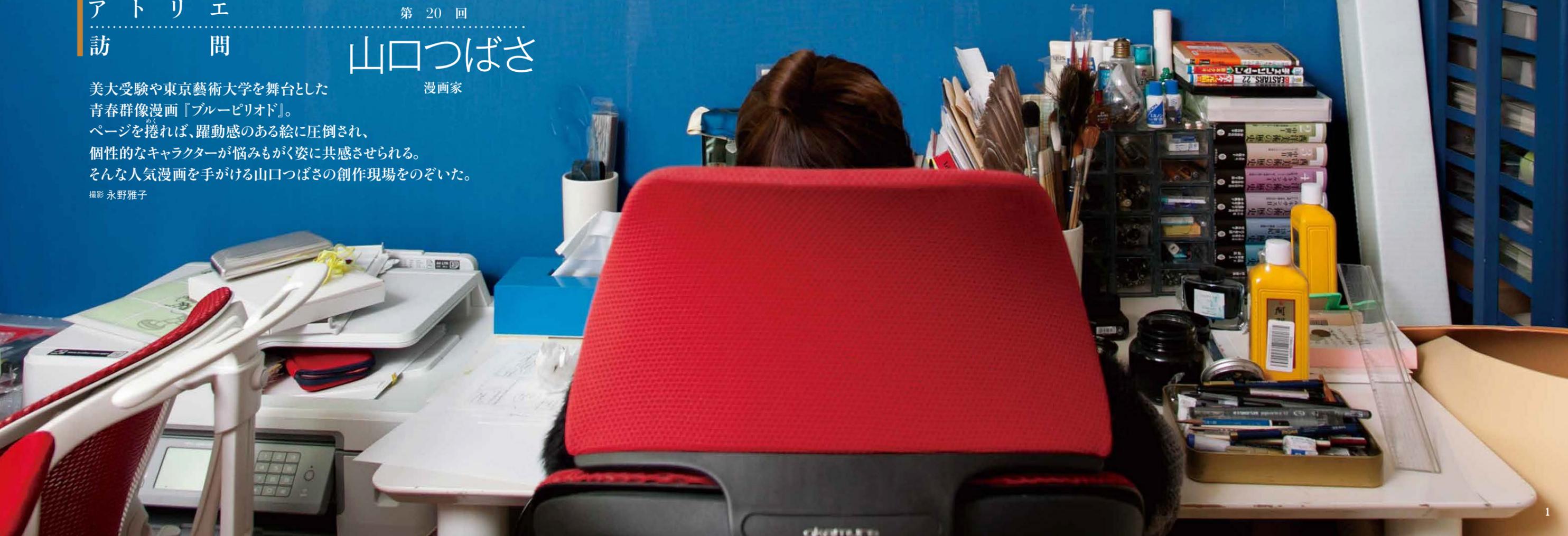
山口つばさ

漫画家

美大受験や東京藝術大学を舞台とした
青春群像漫画『ブルーピリオド』。

ページを捲れば、躍動感のある絵に圧倒され、
個性的なキャラクターが悩みもかく姿に共感させられる。
そんな人気漫画を手がける山口つばさの創作現場をのぞいた。

撮影 永野雅子





部屋を取り囲むように置かれた本棚には、美術関係の書籍や愛読する漫画がずらり。カエル好きなので、棚にはかわいらしいカエルの人形も。

「自分のこだわりを誰かに承認されるって、すごい体験だと思っています。」

にぎわう商店街を抜け、少し歩いた先に職場はあった。自宅も兼ねるマンション一室のドアを引くと、気さくな笑顔で山口さんが迎えてくれた。南向きの窓から日光が差し込む作業部屋に入ると、目に飛び込んできたのは「ブルー」の壁だった。

——青い壁がすてきですね。

山口 実家のカーテンが青だったこともあって、目の前が青だと落ち着くんです。自分で青く塗ったので、あまりきれいじゃないですけど(笑)。

右利きなので、机や椅子は左側から光が差し込むように配置してあります。今はアシスタントさんにはリモートで仕事をしてもらっているので、基本的に一人で作業しています。ネームの作業とかで行き詰まったときは、スマホを家に置いてカフェにこもったりもします。

——画材はどういったものを使われるのですか。

山口 よく使うのは墨汁ですね。インクよりもさらっとしていて、すぐ乾くのでやりやすいんです。色塗りは水彩が多いですが、載せる媒体によっていろいろ変えています。ネームからペン入れまでは手書きでやって、トーンを貼ったり、作中絵を入れたりといった作業はデジタルでやる感じです。

——作中では、本物の美大生が予備



作画やネームに使うさまざまなペンや鉛筆。「人物のペン入れをしているときが楽しいです」。

校時代に描いた絵なども登場しますよね。

山口 たくさんの方に作品を提供していただいたり、取材させていただいたりしているおかげで、『ブルーピリオド』を描いています。

ストーリーを考えるときは、自分の体験をもとにしたり、友達の話をもとにしたりすることが多いです。絵画教室の話を描いたときは、そこで先生をしている友達に取材をしました。第1巻で主人公の八虎が美術にハマっていく過程も、実は友達から聞いた話を参考にしています。

——そうなんですか！

山口 連載を始める前に、中学校で美術の先生をしている友達から聞いた話なんですが、クラスで美術の授業に真面目に取り組まない生徒がいたそうなんです。

ある日、オリジナルの標識やマークをつくるっていう授業で、その生徒が「恋愛推奨」みたいなメッセージをテーマに、男女が手をつないでいる構図のマークをつくらうとしたんです。その子は恋愛ドラマが大好きだったそうで、「あまりギュッとじゃなくて、優しく握っているふうにしたい」とか「女の子のスカートは短すぎないほうがいい」とか、かなり試行錯誤しながら真面目に取り組んだらしくって。

——こだわりが出てきたんですね。

山口 そうなんです。完成した後に



着色に使う絵の具。水彩やアクリルなど、媒体によって使い分ける。



上/ペン入れに使用するインク。ペン先についたインクをティッシュでこまめに拭き取りながら作画していく。下/トーン処理や作中絵の貼り付けなどを行うデジタル端末。作品の納品はデジタルデータで行っている。

クラスで人気投票をしたら、その生徒の作品がすごく人気だったみたいで。それから、その生徒は美術の授業に真剣に取り組むようになったという。とてもいいエピソードだなと思って、『ブルーピリオド』を描く際の参考にしました。

自分のこだわりを誰かに承認されるって、すごい体験だと思っています。八虎も、渋谷を青く描いた風景画をきっかけに美術にハマっていきませんが、彼も絵に込めたこだわりや思いが周囲に伝わったことがうれしかったわけで。

八虎のように、もともとまったく美術に興味がなく、その道の天才ではない人間が美術の道を歩んでいく過程を描くことで、少しでも美術への距離感を縮められたらいいと思



さまざまな筆。よく使うのは、書道などに使う「開明墨汁」だ。



「ブルーピリオド」の作中に出てくるモチーフが描かれたトートバッグ。

っています。——山口さんご自身は、子どもの頃の美術の授業で印象に残っていることはありますか。

山口 私は小さい頃からずっと絵を描いているような子どもだったので、周囲からも「絵が得意なつばさちゃん」みたいな感じだったんですね。それで中学生の頃、少しグロテス

クな絵を描いたことがあったんです。友達も絵を見て騒いでくれるし、描いていて楽しいし。そしたら、その絵が職員室で少し問題になってしまった。でも、美術の先生が「この年頃ならよくある」とフォローしてくれたらしいんです。尖った絵でも、ありのままを見てくれた気がしてうれしかったですね。



やまぐち・つばさ
東京都出身。東京藝術大学絵画科油画専攻卒業後、『熱の夢』で「アフタヌーン四季賞 秋のコンテスト」の佳作を受賞。2016年に新海誠監督原作の『彼女と彼女の猫』のコミカライズで漫画家デビュー。現在、『月刊アフタヌーン』（講談社）で『ブルーピリオド』を連載中。同作は「マンガ大賞2020」で大賞を受賞、21年10月よりテレビアニメ放送もスタート。(作品にノイズを入れたくないとの理由から、素顔は非公表)

高等学校の新版教科書『美術2』には、『ブルーピリオド』の制作の流れや、漫画を描くときに使う道具などが紹介されています。

特集1

新学期の授業アイデア

新学期を迎えました。生徒たちは期待に胸を膨らませていることでしょう。

その気持ちに応えるために、どのような授業をしたらよいでしょうか。

本特集では、新学期に役立つ授業のアイデアを、先生方にご紹介いただきます。

イラスト もとき理川



新学期に心がけたいこと

山崎正明 (北翔大学教授)

北海道生まれ。元千歳市立北斗中学校教諭。自身のブログ「美術と自然と人」で、授業実践や生徒作品などを紹介している。光村図書中学校「美術」教科書の編集委員。



30年以上、中学校で美術を教えてきましたが、
新学期はいつも
「新しい気持ちでやっていこう!」と思っていました。
私が新学期に心がけていたことや、
授業びらきの工夫などをご紹介します。

安心感をもたせる

美術に苦手意識をもつ生徒にその理由を尋ねると、たいてい「絵がうまくないから」と答えます。ですから、授業びらきでは、美術の学習の目標は絵を写實的に描くことではないと伝え、生徒たちに安心感をもたせたいですね。とはいえ、中学生になると描く力をつけたいと思っている生徒も多いので、「見て描く力」は努力で高められることを実感させたいものです。そこで、新学期の早い段階でスケッチの題材を設定して丁寧に指導するとよいでしょう。

また、表現はもちろん鑑賞も美術の大事な学習です。新学期に「対話による鑑賞」を行い、仲間と共に作品を鑑賞することのよさや、自分なりの見方や考え方をもちつことの大切さを伝えるとよいでしょう。

新学期に行いたい授業は
P.6へ

授業のルールを共有する

学期初めの授業では、授業の中でのルールを生徒に伝えることも大切です。ルールというと堅苦しく思われがちですが、最低限のルールを守ることによって、楽しく豊かに学ぶことができます。教師が一方向的にルールを提示するのではなく、ルールが必要な理由を丁寧に説明し、定着するまで繰り返し声かけをするようにしましょう。

授業のルールは
P.7へ

これからの学習への期待感を高める

中学生になると「なぜ美術を学ぶのだろう」と疑問をもつ生徒が出てきます。授業びらきでは、美術を学ぶ意味を考えさせたり、美術の奥深さやおもしろさを感じ取らせたりして、これからの学習に前向きな気持ちをもたせたいものです。本特集では、お二人の先生の実践を紹介しています。そちらをぜひご覧ください。

実践事例は
P.8~9へ

新学期に行いたい授業

山崎先生のポイント /
私が新学期によく行っていた
授業をご紹介します。

●「見て描く力」は努力で高められることを実感する授業

「見て描く力」は、美術表現のうえで大切な力の一つです。私は、レオナルド・ダ・ヴィンチやピカソの素描を観察させたうえでスケッチさせるようにしています。描き直しの跡がたくさん残った素描を観察することで、天才とよばれる画家たちも、試行錯誤しながら描いていたことを感じ取らせたいのです。そこから、失敗しても何度も描き直せばいいということや、努力によって描く力は高められることを実感させたいと考えています。



【授業の流れ(全2時間)】

①まず見て描く

教師の説明を聞き、幼い頃は知っているものを描くことが中心だったが、中学生になると物事を客観的に捉えられるようになり、「見て描く」おもしろさがわかることを知る。まず身近なものとして手を描いてみる。

②画家の素描から学ぶ

画家の素描を鑑賞し、描き直しの線や形を捉えるための補助線を見つける。そこから、画家も試行錯誤しながら描いていることを感じ取る。改めて自分のスケッチを鑑賞して、画家の素描との共通点を見つける。

③スケッチを楽しむ

画家の素描を参考に、身近なものをスケッチする。最初は、おおまかに形を捉えてから細かい部分を描き進める。次にマチスのスケッチなど、また違った描き方の作品を鑑賞する。短時間で何枚もスケッチし、さまざまな表現方法を楽しむ。

●美術鑑賞のおもしろさを知る「対話による鑑賞」の授業

新学期にこそ、クラスの仲間とともに一つの作品をじっくりと鑑賞する「対話による鑑賞」を行うことをおすすめします。作品の見方や感じ方は人それぞれですが、だからこそおもしろいと感じさせたいものです。そうすれば教室に受容的な雰囲気が生まれます。光村図書館のウェブサイト「はじめよう、対話による鑑賞の授業」というコンテンツがありますので、授業の進め方はそちらをぜひご参照ください。

「はじめよう、
対話による鑑賞の授業」
はこちらから



「風神雷神図屏風」を鑑賞したときの様子。「美術準備室創刊号」には、このときの授業レポートが掲載されている。

山崎先生の
授業レポートはこちらから。



山崎先生のポイント /
授業をスムーズに進めるうえで
生徒と共有しておきたいルールを
をご紹介します。

授業のルール

●スケッチブックの使い方

スケッチブック(またはクロッキー帳)に美術での学びを集約させるとよいでしょう。生徒が気軽にスケッチブックを活用できるよう、新学期にさまざまな使い方を紹介しておくとういと思います。教科書1年P.9にはスケッチブックやノートの活用方法が詳しく掲載されています。

【使い方の例】

- ・作品の発想段階でアイデアスケッチをする。
- ・試し塗りをしたり、部分スケッチをしたり、「試す場」として使う。
- ・自分に必要な資料や気に入った写真などを貼る。
- ・ワークシートを貼ったり、作品を鑑賞したときの感想を書いたりするなど、ノートとして使う。



●道具や材料の使い方

美術室にある、道具や材料の保管場所や使い方を生徒に共有しましょう。そうすることで、生徒が思いついたときにすぐ道具や材料を活用できるようになり、表現の幅が広がります。

危険でない道具や材料であれば、詳しく説明する前に、まずは触れさせてみるというのも一つの方法です。例えば、面相筆を使ってどのくらい細かい線を描けるか、樹脂粘土を使ってどんな形がつけられるかなど、遊びながら試させましょう。実際に触れて、体験を通して得た知識のほうが身につきます。表現に取り組む前に道具や素材に触れることで、その特性を生かして表現しやすくなりますね。

彫刻刀などの注意を要する道具は、使い方についての説明動画を教科書のQRコードから見ることもできるので、授業内で紹介するとよいでしょう。



●相互鑑賞のルール

生徒どうしの学び合いの機会を設けたいので、制作の途中で、生徒たちが互いの作品を鑑賞し合う「相互鑑賞」の時間を設定するようにしていました。その際に、必ず次のルールを伝えていました。

- ①友達の作品のよい点を見つけるようにする。もし課題があったら、それをそのまま伝えるのではなく、大事なことを一つに絞って伝える。
- ②友達からの意見や感想を取り入れるかどうかは自分自身で判断する。

①のルールを説明するときは、「意見を一つに絞ることも自分自身の勉強になるからね」と話しています。②では、「アドバイスを受け入れてもらえなかったからといって、落ちこむ必要はないよ」ということも伝えていました。



実践事例

生徒たちが、これからの美術の学習に前向きな気持ちをもてるように、どのような授業をしたらよいのでしょうか。お二人の先生の実践をご紹介します。



事例1

「ゲルニカ」の鑑賞を通して、美術を学ぶ意味を考える

飯田成子

(埼玉県朝霞市立朝霞第五中学校教諭)

授業のねらい

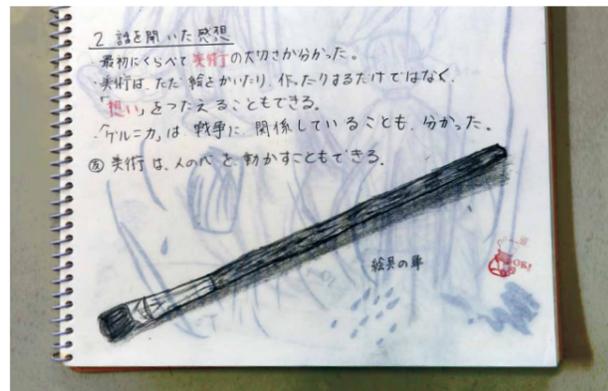
授業びらきでは、美術には言葉や時代を超えて思いを伝える力があるということ、生徒に実感させたい。そこで1年のオリエンテーションでは、「ゲルニカ」で対話による鑑賞を行い、ピカソが作品に込めた思いを感じ取らせる時間を設けている(「ゲルニカ」は2・3年の教科書に掲載されているので、2・3年のオリエンテーションでも扱ってもよいだろう)。この作品をじっくり鑑賞することで、美術の奥深さを感じ取らせたい。

「オリエンテーション」(2時間) 準備するもの:スケッチブック

時	学習活動
1	<p>なぜ美術を学ぶのか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師が用意したスライドを見た後、美術は何のために学ぶのか考えて、自分の意見をノートにまとめ、発表する。 美術を学ぶと、感じたことを表現したり、鑑賞して相手の気持ちを考えたりできるようになることを知る。 <p>「ゲルニカ」を鑑賞する</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ゲルニカ」を鑑賞して、そこに描かれているものは何か、作品からどんなイメージが湧くかなどについて、クラス全体で話し合う。 「ゲルニカ」が描かれた背景について学び、ピカソが伝えたかったものは何か考え、発表する。 美術には、時代や言葉を超えて、人に訴える力があることを知る。
2	<p>これからの学習について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の説明を聞き、3年間の美術の目標「自分らしい表現をしよう 感じる心を育てよう」を知る。 美術室の中を自由に歩いて回り、どこにどんな道具や材料があるか知る。 美術室にある道具の中で気になるものを一つ選び、短時間でスケッチする。



生徒の緊張をほぐすため、「どんな意見でも間違いではないよ」と声をかける飯田先生。生徒たちは徐々に「悲しい感じがする」「絶望しているようだ」など、作品の主題に迫る発言をする。



この授業で生徒が取ったメモ。「美術は何のために学ぶのか」という問いについてじっくり最初の授業で考えることが、これからの学習へのやる気につながる。

事例2

新学期は「身の回りの美しいもの」に気づくところからスタート!

高見 藍

(さいたま市立大宮国際中等教育学校教諭)

授業のねらい

身近なところにある美しいものを、自分なりの視点で撮影する題材である。この授業で、人によって美しいと感じるものは違うことや、自らの「美しいと感じる気持ち」に気づかせたい。生徒は日常的にSNSに親しんでいるので、Instagram風に写真をまとめる活動も行った。絵を描くのが苦手な生徒も、写真であれば気軽に取り組むことができる。教科書1年P.2~4の「うつくしい!」のページを参照してもよいだろう。

「美しいものを探そう」(3時間) 準備するもの:デジタル端末、ワークシート

時	学習活動
1	<p>美しいものとは何か考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 美しいものとは何か考えて、クラス全体で話し合う。 教師が用意した複数の写真の中から心ひかれるものを選ぶ。どこが美しいと感じたか、形や色彩、質感などに着目して付箋に書き出して、同じ写真を選んだ生徒と意見を交流する。
授業外	<p>美しいと感じる写真を撮影する</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の中で美しいと感じたものや風景を撮影する。
2	<p>自分で撮影した写真を分析する</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で撮影した写真を鑑賞し、どこが美しいと感じたのか、形や色彩、質感などに着目し、そこから感じ取れるイメージをワークシートにまとめる。 グループに分かれてお互いの写真を鑑賞し、そのよさを話し合う。
3	<p>選んだ写真に合った「#(ハッシュタグ)」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> グループに分かれ、全クラスの生徒が撮ってきた写真の中から4、5枚程度、共通点がある写真を選ぶ。 Instagramのようにハッシュタグを考える。 選んだ写真の形や色彩、イメージなどから共通点を見つけ、短い言葉であらわす。



全クラスの生徒が撮ってきた写真の中から、気になる写真を選んでいる様子。「身近な風景も改めて見るときれい」「同じ写真を見ても人によって感じ方が違っておもしろい」といった意見が出た。



グループでハッシュタグを考え、ワークシートにまとめた。

わくわくする!

美術室づくり

新学期、気持ちも新たに美術室を見直してみませんか。
ここではお二人の先生の「美術室づくり」の工夫をご紹介します。

美術室をもっとご覧になりたい方はこちらから。



CASE 1

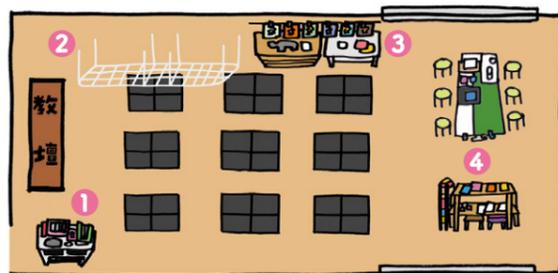


ラボのような美術室に

田中真二郎

(秋田県大仙市立西仙北中学校教諭)

美術室は、「ラボ(実験室)」にしたいと思っています。
ここで発想や構想を広げ、外に発信していくような場にしたい。
だから、生徒たちが自発的に「こんな表現をしてみたい」
「この道具を使ってみたい」と思えるような工夫をしています。



細長い形状の広々とした美術室。机は基本的に4人1組にして置いている。後ろのスペースをゆったりと使うことができるので、「実験コーナー」や「図書コーナー」を設け、生徒たちが自由に使えるようにしている。



① 入り口の棚をミニ展示スペースに

美術室の入り口にある棚は生徒の目に留まりやすいため、生徒作品や展覧会の図録など「今、見てほしい」資料を置くようにしている。



② 天井にはスチールシェルフを

「フィンランドの学校を訪れたとき、こういう吊り棚を見かけていいなと思い、まねしました」。生徒作品などを飾ることが多い。



③ 掲示物は授業の内容に合わせて

授業の内容によって掲示物を変える。このときは「15歳の存在証明」という題材を扱っていたので、ゴッホの自画像の変遷を掲示。



④ 「実験コーナー」と「図書コーナー」

教室の後方には、自分の机ではできないことを試すための「実験コーナー」(左)があり、大きな作業台にさまざまな道具が置かれている。美術関連の書籍や雑誌をゆっくり閲覧することができる「図書コーナー」(右)も。



CASE 2

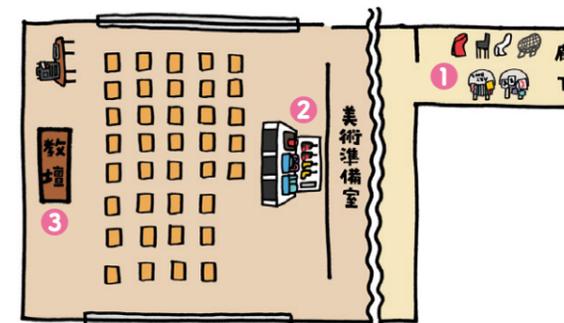


「遊び」の場として

小西悟士

(埼玉大学教育学部附属中学校教諭)

美術室では「遊び」を大切にしたいと思っています。
今の子どもたちはちゃんと遊べなくなっている。
ただ楽しく騒ぐことも「遊び」ですが、余白のことを「遊び」といったり、
結果を恐れずに試してみることも「遊び」といったりします。
生徒も遊ぶし、教える側も遊ぶ。
一緒に遊べる「たまり場」のような場所にしたいです。



左右の窓から光が差し込む明るい美術室。机は授業の内容によって適宜配置を変える。隣に広い美術準備室があり、そこには生徒作品を展示したり、普段使わない道具を置いたりしている。廊下から美術室へのアプローチも印象的だ。



① 美術室へ続く廊下はギャラリースペース

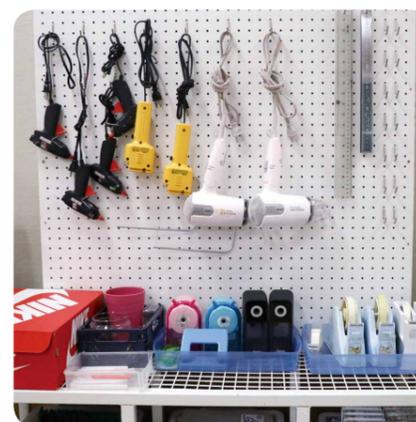
美術室へ続く廊下の壁には展覧会のポスターが貼られ、その前に先生がコレクションしているデザインアームチェアがずらりと並ぶ。「ここは出入り自由のたまり場のような場所にしたいんです」。椅子の向かいにあるテーブルには、美術関連の書籍が置かれ、気軽に読めるようになっている。



先生がセレクトした美術関連の書籍。



生徒は、バントンチェアなどの名作椅子に気軽に座ってつろぐことができる。



② 道具は使いやすく

教室の後方には、さまざまな道具がきれいに整理して収納されている。「使いたいと思った道具を、自分ですぐに取り出せるようにしておきたい。そこにストレスを感じさせたくない」と小西先生。

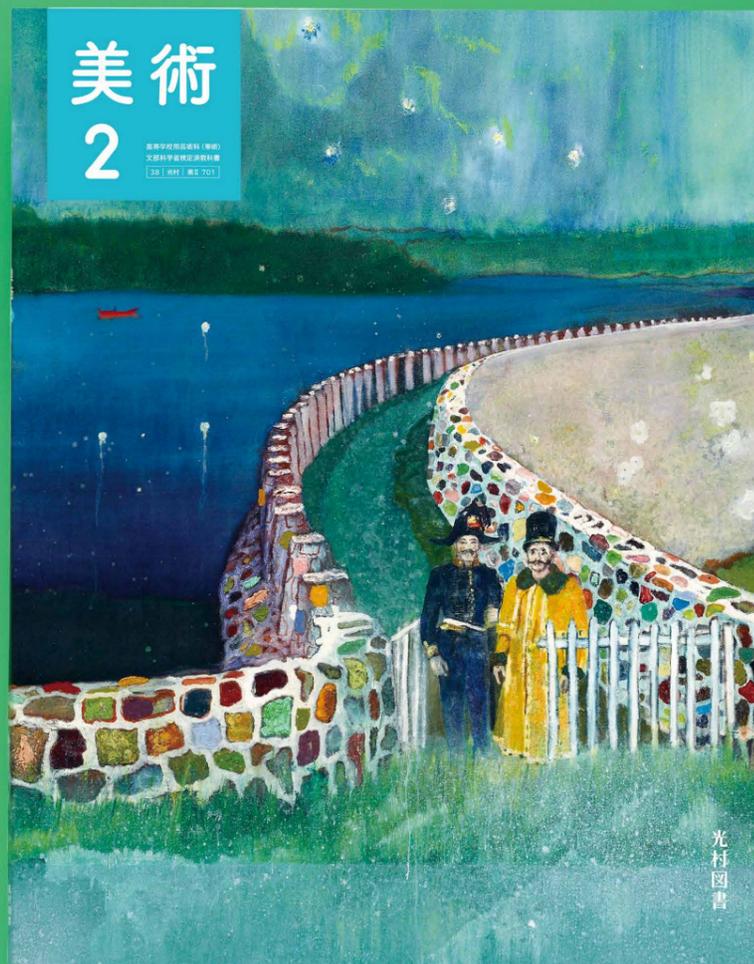
③ 制作中にはBGMを

全体に向かって話すときはマイクを使う。左はマイク用のスピーカー。右はパソコンにつないでいるスピーカー。授業中でも制作に集中してもらいたいときには音楽を流す。ふと耳に入る音からも発想のきっかけが生まれるという。



特集2

令和5年度版 高等学校『美術2』の ご案内



美術
2

高等学校の必修科目(芸術) 必修2年次(必修)

32 | 冊数 | 988 | 頁数 | 733 |

光村図書

編集委員が語る /

新版教科書 ここがおすすめ!

光村図書の高等学校『美術2』の教科書が新しくなりました。
本特集では、編集に携わった先生方に新版教科書のおすすめポイントをご紹介します。

社会とのつながりを意識した題材構成

生徒たちが社会と美術とのつながりを実感できるような
作品を選び、題材を構成しました。

おすすめポイント /

環境問題やサステナビリティ(持続可能性)をテーマにした作品を
発表しているアーティスト、オラファー・エリアソンを巻頭で大きく取り上げました。
彼の作品を鑑賞することを通して、気候変動について考えるとともに、
美術には社会の諸問題について気づかせる力があることや、
社会における美術の役割について考えてもらえたらと思います。
この他、生徒たちにSDGsについて考えさせる作品を多数取り上げています。



うえの こういち
上野行一
元高知大学教授

POINT

環境問題をテーマにした作品を発表する、話題の作家を大きく掲載

アートを紹介したサステナブルな世界の実現に向けた試みで、国際的に高い評価を得ている
オラファー・エリアソン。彼の代表作やアイデアスケッチを掲載しました。

作家の手法 アーティスト オラファー・エリアソン

「体験そのものが作品の本質」

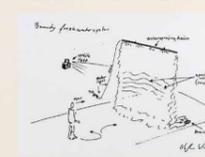
私の作品で重要なのは、体験することです。例えば「アイス・ウォッチ」(P.5)という作品では、氷河から氷を運び、街中に展示しました。氷が溶けることは、知識として誰でも知っています。しかし、実際に氷に触れた人たちは「冷たい」と驚きます。つまり、誰か知っていること、体験から得られるものは全く異なっていて、家に離れたとき、その二つが結び付くのです。
私が守りたいものは、どうすれば私たち一人一人が「地球の気候変動とつながっている」という実感をもつことができるかということです。頭の中で知っているだけでは、行動に結び付きません。身体的な関わりから得られた実感こそが一人一人の行動につながるかと信じて、作品を制作しています。



1967年デンマークのコペンハーゲンに生まれる。93年スウェーデン、98年オランダ、03年アイスランド、07年アメリカに移住。代表作として「アイス・ウォッチ」を制作している。

「ビューティ」について

「ビューティ」(P.2-3)は天井から、観客のまわりのカーテンのように降り、そこにスポットライトで光を当てた作品だ。制作のためのスケッチなどを見てみよう。



「ビューティ」のためのスケッチ 1993年
スポットライト、観客、水のカーテンの位置や、作品の仕組みなどが記されている。



スタジオ内に機材を設置し、紐の見える方を動かしている様子。「ビューティ」で使用した水のカーテンは一回り回すのだが、ここではより複雑な大きな「レインボーアセンブリー」のために、スポットライトを複数設置した様子を行っている。

スタジオでの制作



蒸し暑い間に色とりどりのガラス球を付けた「ユア・アンブレラ・プロジェクト」の制作風景。
紐・ライトを制作するワークショップ「グリーンライト・プロジェクト」のための準備の様子。



アイス・ウォッチ 氷河の氷 2015年
アイスランドの氷河「ボウラシ」から採取した氷の塊を溶かすことで、気候変動を体験できることを意識している。フランスで行われた、気候変動についての国際会議に合わせ制作された。



スクリーンを見下ろした様子。左右二つの壁のうちの左がスクリーン、右がライト。観客になった美術には観客の姿が映り込んでいる。



天井が曇ってしまっているため、多くの人が床に寝そべって鑑賞した。



アイス・ウォッチ 氷河の氷 2015年
アイスランドの氷河「ボウラシ」から採取した氷の塊を溶かすことで、気候変動を体験できることを意識している。フランスで行われた、気候変動についての国際会議に合わせ制作された。



鑑賞者は自由に氷に触り、氷の溶けだす様子に驚いていた様子を実感することができる。

P.4~5「作家の手法 オラファー・エリアソン」



SDGsに関連した作品を多数掲載!

運命の門 (P.24)、ジョルジュ・ルース アートプロジェクト in 宮城 (P.32)、TAKAO 599 MUSEUM (P.35)、ヘルプマーク (P.38)、飛行機の機内食のための食器セットとその原材料 (P.38)、東京防災 (P.39)、避難所用 紙の間仕切りシステム (P.39)、Rami Ver1.0<競技用義足> (P.40~41)、チャリーチェア (P.43)、バルミラの住宅 (P.45)、Tree-ness House (P.45)、Great (Bamboo) Wall (P.46)、Jeju Ball (P.47)、高柳町 陽の楽家 (P.47)

ダイナミックな鑑賞題材

ワイドな紙面を生かして、ミケランジェロ・ブオナローティの代表作
「システーナ礼拝堂 天井画」を大胆に掲載しました。



わたなべ しんいち
渡辺晋輔
国立西洋美術館
学芸課長

おすすめポイント

ミケランジェロがこの巨大な天井画を描いたとき、彼は登場人物の各々をどう描くかということとはもとより、いかに壁面を分割して物語を展開させるか、また物語場面とそれ以外の人物像をどのように組み合わせるか、といったことにも頭を悩ませました。その結果、システーナ礼拝堂に足を踏み入れた人々は
今なお、息をのむような感動を覚えるのです。

4ページを使って掲載した天井全体と扉ページを比べることによって、ミケランジェロの芸術を多面的に感じ取ることができるでしょう。

POINT 美しい高精細図版

天井に描かれた人物をじっくり鑑賞できるよう、高精細図版を紙面いっぱいに掲載しました。扉のページには、「アダム」の部分を大きく紹介しています。

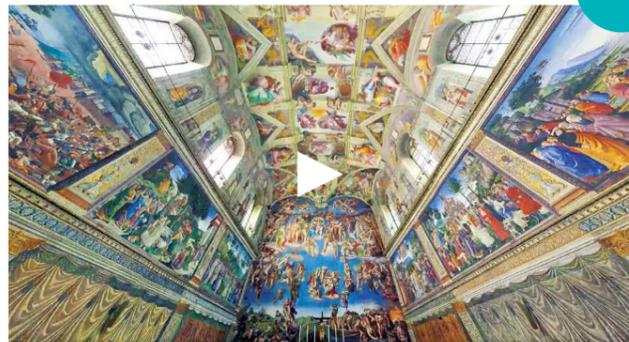


P.14~19 「システーナ礼拝堂 天井画」

POINT

作品の解説動画にリンク

教科書P.13のQRコードから作品解説の動画を見ることができます。礼拝堂の内部の様子や作品が描かれた背景などを詳しく紹介しています。



制作に役立つ! 「トーン別カラーガイド」

巻末には切り離し式の色の資料をご用意しました。
配色カードとして使ったり、デジタルで制作する際に活用したりできるカラーガイドです。

おすすめポイント

色相とトーンによるカラーパレット&データです。
色をトーン別に分類し、色相ごとに参考となるCMYK値、RGB値、HTMLカラーコードを掲載しました。
配色カードとして使ったり、デジタルで色指定するときに参照したりできる資料です。
切り離して気軽に持ち運べるので、制作のさまざまな場面で活用してもらえたらと思います。



なとり かずゆき
名取和幸
色彩学研究者・
一般財団法人
日本色彩研究所
常務理事



巻末資料「トーン別カラーガイド」

⑫ 赤紫

① C:0 M:70 Y:10 K:10
② R:221 G:103 B:145
③ #DD6791

- ① **CMYK値**
色料の三原色の数値。主に印刷物を制作するときに使います。
- ② **RGB値**
色光の三原色の数値。テレビやパソコンの画面などで表示するものを制作するときに使います。
- ③ **HTMLカラーコード**
ウェブ上の色をあらわす6桁の数値。ウェブサイトを作成するときに使います。

POINT デジタルで制作するときに便利!



『美術1』には、「混色のヒント&色彩図鑑」が付いています!



『美術1』の巻末には、切り離し式の「混色のヒント&色彩図鑑」が付いています。絵の具を混色して色をつくるときの目安になる資料です。

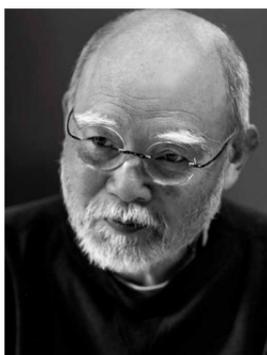


POINT 絵の具を使って制作するときに便利!

作家の肖像

第 20 回

このコーナーでは、
毎回一人の作家を取り上げ、
美術評論家の酒井忠康先生に、
お話をうかがいます。



平野甲賀

1938-2021

ひらの・こうが
1938年京城(現ソウル)生まれ。装丁家、ブックデザイナー。武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)視覚デザイン科卒業後、高島屋宣伝部を経て、フリー。64年から91年まで晶文社の本の装丁を一人で担い、同社のイメージを形成した。演劇との関わりも深く、劇団黒テントなどのポスター制作も続けた。2007年に描き文字フォント「コウガグロテスク 06」が発売。21年3月、82歳で死去。

空間に躍る文字

平野さんと初めてお会いしたのは2007年の冬、世田谷美術館である企画展が開かれたときです。その企画展は、土方久功ひじかたひさかつと中島敦なかじまあつしに関するものでしたが、ポスターの題字を平野さんにデザインしていただき、美術館にも足を運んでいただいたのです。それより前に拙著(※1)の装丁を手がけてもらったこともありますが、実際にお会いするのはそのときが初めてでした。

がっちりとした体躯で、自己主張をあまりしない寡黙な方でした。それでいて朗らかで、人としての奥行きを感じたのを覚えています。そのご縁もあって、2019年の企画展「ある編集者のユートピア」でも、題字のデザインをお願いしました。

平野さんの手がける文字は平面ではなく、空間の中で躍っているように思えます。文字がもつ形や概念を一度上手に壊して、それから再構築していたのではないのでしょうか。

演劇への愛情

演劇への揺るぎない愛情をもっている方でもありました。「黒テント」をはじめとする劇団のポスターも多数手がけましたが、その劇団の内側にまで入り込んでいき、仕事をしたと聞きます。外側に身を置き、事務的に仕事をこなすのではなく、舞台装置や時には演出にまで関わった。ここに平野さんの創造者としての姿勢がうかがえます。

装丁はいわゆる本の顔。装丁が本文の内容とまったく離れてしまえば、本の顔にふさわしくない。かといって本文の内容に引きずられすぎても、

デザイナーの個性やコンセプトが置き去りになってしまう。そのあたりの調整がとても難しいところです。

窮屈さをも楽しみながら

デザインには、正解に近い存在があります。「1+1=2」というような世界共通の公式がある。文字デザインについていえば、大多数の人が読みやすいような文字にすると、どんどん公式に近づいていってしまう。それはもう単なる普通の活字です。

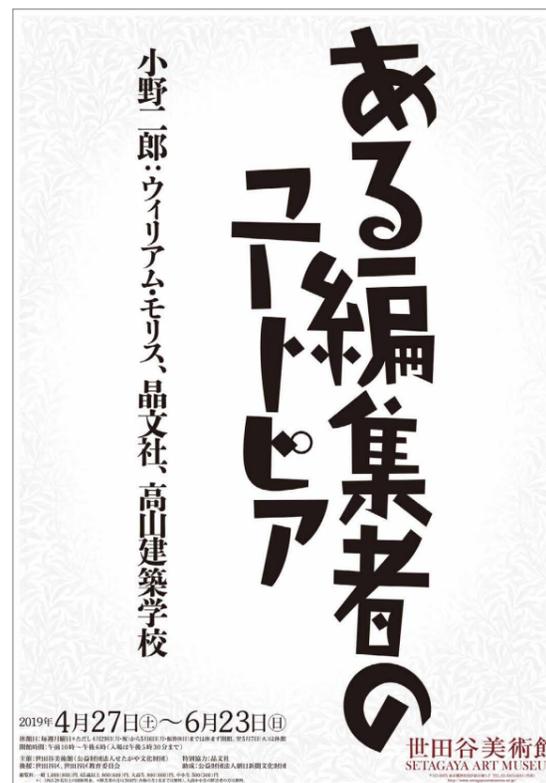
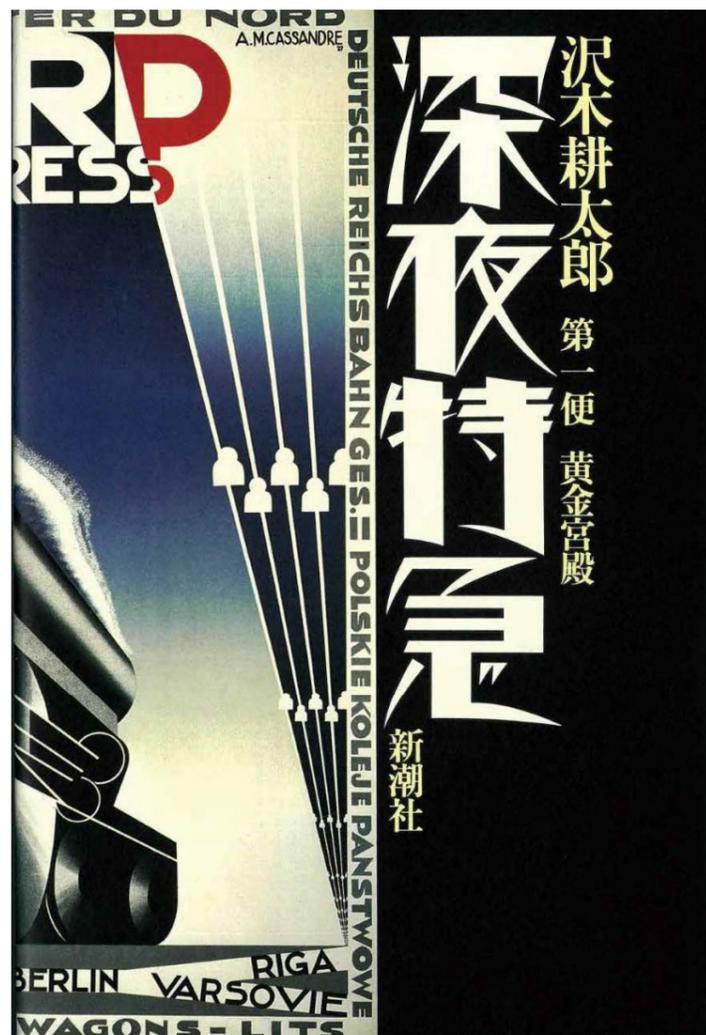
その意味で、平野さんはデザインにおけるある種の窮屈さを感じていたかもしれません。しかし、そういった「正解」と接点をもちつつも、読めるか読めないかのギリギリのところで文字を造形した。窮屈さを認めたくて、まるで子どものように、数々の実験を楽しんでいたように思えるのです。

代名詞ともいえる描き文字フォント「コウガグロテスク」の発売で、誰でも平野さんの文字を扱えるようになりましたが、やはり同じフォントを使ってデザインしただけでは、平野さんようにはいかない。字間や傾きなど、非常に微妙なところまで気を配って仕事をされていたことがよくわかります。文字デザイン、装丁の世界において、天才だったというほかありません。(談)

※1『開化の浮世絵師 清親』(酒井忠康 著、1978年、せりか書房)

酒井 忠康

さかい・ただやす
世田谷美術館館長、美術評論家。
1941年北海道生まれ。慶應義塾大学卒業。
神奈川県立近代美術館館長を経て現職。
光村図書中学校『美術』代表著者。



左上／『深夜特急』(沢木耕太郎 著)の装丁

1986 新潮社
作家の沢木耕太郎が、1970年代にインドのデリーからロンドンまでを乗り合いバスで旅したときのことを描いた紀行小説。平野は独特の描き文字で題字をデザインし、その後も沢木作品の装丁を数多く手がけた。

右上／『現代美術コンテンパン』(トム・ウルフ 著／高島平吾 訳)の装丁

1984 晶文社
黄色の背景に黒の題字という装丁が特徴の「晶文社セレクション」シリーズの1冊。サイのロゴマークも平野が自らデザインした。

下／企画展「ある編集者のユートピア」のポスター

72.8 × 51.5cm 2019
(文字:平野甲賀 デザイン:桑畑吉伸)
晶文社を設立した一人である編集者・小野二郎と、その周辺の活動を紹介した企画展。平野はポスターやちらしの文字デザインに加え、会場の展示にも関わった。

教室を飛びだして

八戸市美術館 学校連携プロジェクト

全面建て替えにより、2021年11月にリニューアルオープンした青森県八戸市美術館。施設の一新を機に、市内の小学校、中学校、高等学校が美術館と連携し、アートに関するさまざまな事業に取り組む「学校連携プロジェクト」が始動しました。世代や職種の枠を超え、地域一丸となって行われている活動をご紹介します。

小・中・高校生が合作

「虹色の大樹」が高く掲げられると、歓声が上がった。

2021年8月3日、八戸市美術館。市内の中学校・高校に通う美術部員約40人が、半日かけて巨大絵画の共同制作に取り組んだ。

半透明のシートを9枚つなぎ合わせた「キャンバス」は、縦10.8、横5.4メートル。高校生が左半分、中学生が右半分の色を塗った後、事前に小・中学生が描いた「八戸の実」(ウミネコや八幡馬、せんべい汁といった八戸名物を描いた絵)を周囲に縫い付け、大樹の絵を完成させた。

参加した中学生は、天井から吊るされた作品を仰ぎ見ながら、「あの色、私たちがやったところだ！」と達成感にあふれた様子。他の高校生の一人は「中学生の配色が生き生きしていて驚いた」と話していた。

先生、生徒双方にプラス

1986年に開館した旧八戸市美術館は、老朽化などを理由に2017年に閉館し、全面建て替えを行うこと

となった。

リニューアルオープンをきっかけに、組織の枠組みを超えた連携を深めようと、2020年9月、小・中・高校の図工・美術などの教諭や美術館学芸員、専門家による「学校連携プロジェクトチーム」(以下PT)が発足。初回の打ち合わせではそれぞれの自己紹介から始まり、各校で抱えている課題や悩み、今後PTでやってみたいことなどを話し合った。

「精力的な方が多く、美術館からお願いするというよりも、自ら手を挙げてくれた先生がほとんどでした」と語るのは、同館学芸員の篠原英里さん。定期的に開催している打ち合わせでは毎回、たくさんの意見が飛び交うという。

学校では図工や美術の授業時数が減り、美術教諭の数も減っている中、PTの活動により、先生どうしの横のつながりも生まれた。また、生徒にとっても、美術館との連携や世代を超えた交流が、創作へのよい刺激になっているという。PTの取り組みが、先生と生徒、双方にとってプラスの効果を生んでいるのだ。

異世代交流で刺激

2021年度はこうした合同制作の他、小・中・高校生が一人一つ、同じテーマで作品をつくるワークショップも開催。テーマは「こころ」、新聞紙を主な素材とし、児童・生徒約70人が作品づくりに取り組んだ。

完成後はグループごとに鑑賞会を行い、高校生が司会を担当。中学生が「小学生の想像力はすごい」と話せば、小学生は「中学生は心の表と裏を表現している人が多かった」などと話し、互いの発想や表現の違いに学ぶところが多かったようだった。

現在は、中学生が作家や美術館スタッフなどに取材し、新聞を手づくりする「美術館新聞部」の活動も進行中だ。

今後は、これまでの活動を振り返ったり、やってみたいことを気軽に相談したりできるよう、館内に「ラボ」というスペースを設ける予定。「全員で楽しみながら活動していきたい」と篠原さん。枠組みを超えた新しい取り組みが、確実に根を張りつつある。



1/八戸市内の小学生、中学生、高校生が連携して制作した巨大絵画。
2/巨大絵画の色塗り、中学生と高校生で左右半分ずつ分担して行った。
3/小学生、中学生、高校生が「こころ」という同じテーマで作品制作に取り組んだワークショップ。鑑賞会では、世代の異なる参加者どうしで感想が交わされた。
4/ワークショップ後のPTでの振り返り。全体の打ち合わせは、2か月に1回程度開催している。

放課後
第20回
ART



第 20 回

「ガストホーフ・ツァ・ムルデンタールシュペレ」

ピーター・ドイグ

キャンヴァス、油彩 高さ196×296cm 2000～02年
シカゴ美術館蔵(アメリカ)

©Peter Doig. All rights reserved, DACS & JASPAR 2022 G2809

具体と抽象の混在

ピーター・ドイグの作品を初めて見たのは、2020年に東京国立近代美術館で開催された「ピーター・ドイグ展」でした。

チラシに載っていた《ガストホーフ・ツァ・ムルデンタールシュペレ》を見たとき、伝統的な媒体である絵画を用いているにも関わらず、どこか親しみやすさを覚えたのと、画面に漂う小匙1杯^{さじ}くらいのミステリアスな雰囲気^{つか}に、心をぐっと掴まれました。

実際にドイグの作品を見ると、想像以上にキャンヴァスが大きく、そんな大画面の空間表現は、大胆な構図ながらも奥行き・高さ・広がりなどがしっかりと描きこまれているという印象を受けました。ドイグの作品を紹介する際にときどき用いられる「ミステリアス」という言葉はそれほど重要ではなく、軽やかに絵を仕上げているような印象が強かったのを覚えています。

《ガストホーフ・ツァ・ムルデンタールシュペレ》は、画面奥と横に広がりを見せる自然を背景に、中央の鮮やかな色彩が施された壁のある道に二人の人物が立っています。どこ

かで見たことのあるような自然の実景に対し、中央の鮮やかな道と直立してこちらを見ている人物の非現実的な不自然さなどに、ちょっとした違和感を覚えます。

オーロラが見えそうな空には透明感のあるエメラルドグリーンが広がり、画面手前の地面にも呼応するように同系色が用いられています。一方で、中景の暗い色調の水面や木々は、画面全体の影の役割を果たしているかのようです。

ドイグの作品を目の前にしたとき、具体と抽象の表現が混在しているように感じました。そのような視点を踏まえると、本作では、画面手前の地面と思われる箇所は、色の面のようでありながら、ところどころ^{にじ}でいたりするなど複数の手法^{うかが}が窺えます。ある程度は具体的に描かれていながらも、細部の抽象的な質感が魅力的です。

ドイグの作品は、過去の巨匠たちの作品との関連性について指摘されることも少なくないようですが、画面に意味を見いだしていくというよりも、豊かなキャンヴァスの表面を純粋に楽しむ方法を教えてくれる作家だと感じます。

和田彩花
わだ・あやか

1994年群馬県生まれ。アイドル。2009年、アイドルグループ「スマイレージ」(後に「アンジュルム」に改名)の初期メンバーに選出。10年にメジャーデビュー、同年「第52回日本レコード大賞」最優秀新人賞受賞。19年にアンジュルムを卒業。アイドル業の傍ら、大学院で学んだ美術史の知識を生かし、『乙女の絵画案内』(PHP新書)など美術関連の書籍も執筆している。